

教点連ニュース 第3号 No.10

平成21年9月16日

【平成21年度 第2回セミナーのご案内】

日時：平成21年11月29日（日曜） 13:00～16:45

場所：日本ライトハウス情報文化センター 4F 会議室1・2

大阪市西区江戸堀1-13-2 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」2番出口すぐ

テーマ：地域の学校で学ぶ視覚障害児童・生徒のより良い学習環境を考える

総合司会：加藤俊和氏

内容：12:30 受付

13:00 開会

13:10 講演 「『天文学入門～私たちの宇宙』製作秘話」

嶺重慎氏（京都大学・大学院理学研究科・教授、『マルチモーダル図書
天文学入門～私たちの宇宙』著者）

14:00 事例報告「地域の学校で学ぶ視覚障害児童の学習の取り組み～担当教員の
立場から」 中本由美氏（大阪府八尾市立安中小学校・教諭）

14:50 休憩

15:10 パネルディスカッション 司会：野々村好三氏

パネリスト 中本由美氏（大阪府八尾市立安中小学校・教諭）

松下幹夫氏（大阪府立視覚支援学校・教諭）

藤沢郁子氏（点訳グループ「野菊の会」ボランティア）

16:40 閉会

参加費：会員500円、非会員1,000円

定員：80名

お申し込み・お問い合わせ：日本ライトハウス情報文化センター・点字製作係（担当・奥野）

電話 06-6441-1028 FAX 06-6441-0095 E-mail: okuno@lighthouse.or.jp

*必ず事前に、氏名、所属名、連絡先を明記の上、ファックスかメールにてお申し込み
下さい。

*定員になりしだい、締め切らせていただきます。

【第3回意見交換会】（文科省、点字教科書関係）

日時：8月6日 午後2時から3時30分まで

以前に委員から提出されていた意見書に対する回答が以下のようにありました。

1. 一般校で学ぶ点字教科書を必要とする児童・生徒の実態調査について
今年度中に実施する予定である高校等に在籍する弱視生徒の実態調査に含めて調査することを検討している。
2. 教科書会社に点字教科書を製作させる件
需要数が、必ずしも多くない状況の中で、教科書会社に発行の責任を課すことは現在のところ考えていない。ただし、教育委員会等関係者において点字教科書の製作ができる所を捜しやすいようにするため、点字出版所の情報をホームページに掲載するなどの提供方法を検討していく。
3. 高校レベルの点字教科書の保障措置について
無償を旨とする義務教育制度との違いもあり、高校の設置・運営を司る各自治体に判断を任せる。
4. 副教材の製作について
学校の設置・運営を司る各自治体に判断を任せる。また、各都道府県等に対し、関連する情報を提供していくことを検討している。
5. 視覚障害に特化した教員の研修について
特別支援学校のセンター化、つまり、特別支援学校には地域における特別支援教育のセンターとして、一般校で障害児童・生徒に対する指導を行う教員等に対し専門的な助言や援助を行うことを求めている。このことは、学習指導要領でも明確に規定した。このような機能が発揮される中で、教員のネットワークが構築されることも考えられる。
6. 点字教科書の安定的供給について
デジタルデータの提供がスムーズに進められるように、データ管理機関においてデジタルデータが使いやすいよう、点字データを含めた改変を行い、重複製作などを避けられるための方策も検討していきたい。

【平成 21 年度第 2 回理事会記録】

日時：平成 21 年 8 月 1 日（土） 13:00～17:00

場所：日本点字図書館

参加者：田中、池村、加藤、込山、鈴、高橋實、長岡、野々村、原田、福山、奥野

①点字教科書に関する意見交換会について

8月6日14時から文部科学省との第3回意見交換会が行われる。主な内容は、4月1日の交換会での要望への解答、来年度の概算要求について取り上げられる予定。

- ・拡大教科書の方は推進委員会ができ、整備が進行しているが、点字教科書はなかなか進まない。
- ・盲学校と連携しながら動いていく必要があることを意見懇談会でも上げて行かなくてはならない。

- ・ 拡大教科書は、意見交換会でデモンストレーションを行った結果、推進委員会ができたと言う経緯があるので、点字教科書も製作のデモを行うべきだ。
- ・ 点字教科書の共通製作基準を作成してはどうか？
- ・ 高校教科書の保障も求めるべきだ。
- ・ 点字教科書において、デジタルデータの活用はあまりされていないのではないかと？→高校の情報処理の補助教材点訳で使用したが役立った。

②秋のセミナーについて

③次回のニュースの内容について

秋のセミナーのお知らせ（上述）

ハンゲル点訳・点字について書籍を交えながらの紹介

教点連会員のボランティア団体紹介

【理数点訳書の紹介】

「中学・高校各学年用数学参考書の点字版を無償で提供」

筑波技術大学・障害者高等教育研究支援センターでは、中高生用に市販されているチャート式数学参考書シリーズ（数研出版）の各学年向け版を点字化し、希望者への無償提供を始めています。数学を確実に学ぼうとする点字使用の中高生にとって、学習資料の入手の困難は深刻です。なかでも、一般校に在籍する生徒の場合は、点字教科書の確保も容易ではありません。その背景には、理数分野の点訳や点図の作成ができる人材の不足があります。

今回の点訳は、同大の情報・理数点訳ネットワークに参加している首都圏六つの点訳グループが分担して一気に行いました。専用のメーリングリストを介して点訳グループと同大が点訳方法を検討しながら進めた数ヶ月間の取り組みの成果です。数学の参考書では欠かせない図のほとんどを、手で触れて読み取れるように工夫された点図で掲載しているのが、今回の点字参考書の特色の一つといえます。

同大では、文部科学省の特別教育研究経費によって製作されたこの点字参考書シリーズが、大学進学を目指す点字使用の中高生や数学力の強化を図る視覚障害大学生等に広く有効に活用されるよう、無償での提供を順次始めています。お問い合わせは、電子メールで同大視覚障害系支援課技術係 (onose@k.tsukuba-tech.ac.jp) へお寄せください。

（筑波技術大学 長岡英司）

【ハンゲル点訳・点字について】

「韓国語点字の入門書を点字・活字・デイジーの三つの版で刊行 — 希望者に無償で提供」

筑波技術大学 長岡英司

筑波技術大学・障害者高等教育研究支援センターでは、視覚障害者や点訳者が韓国語点字の基礎を確実に学べるようにするための入門書を刊行しました。これは、同センターが文部科学

省の特別教育研究経費で進めている、視覚障害を持つ大学生の学習資料を整備する取り組みの一環で製作したもの。利便性を高めるために、点字版と活字版に加えてデジ版も製作し、どの版も希望者に無償で提供されています。

<なぜ韓国語？>

日本では、点字使用者が円滑に学べる外国語は、英語などのごく一部の欧州系言語に限られています。その理由は、他の言語の点字を学ぶ方法がないからです。一般社会では、近年、アジア系言語に対する関心が高まっていますが、点字使用者は、それを学習するのが難しい状況にあり、このことは、大学で学ぶ点字使用学生等にとって、切実な問題です。そうした状況を改善する一助となるよう、点字使用者とその教育や支援に携わる関係者の両方が使える韓国語点字入門書が製作されました。韓国語から着手した理由は、アジア系言語の中で唯一、国内に専門点訳グループがあり、学習資料を点字で入手することが可能だからです。

<韓国人留学生と日本の点訳者らの連携で完成>

この種の図書の製作には、十分な専門性が必要です。本書では、原稿の執筆を、韓国から勉学のために来日している金娜英（キム・ナヨン）さんが担当しました。同女子は、韓国で点訳士として日韓両国語の点訳に携わった経験を持ちます。そして、原稿の校正・編集と点訳では、国内唯一の韓国語専門点訳グループ「サランバン」の点訳者が、デジ版の製作では、社会福祉法人桜雲会の音訳者と録音編集者が、全面的に協力しました。こうして出来上がった一書が、韓国語点字、さらには韓国語の学習に活用されるよう、同大では希望者に対して無償での提供を行っています。本書についてのお問い合わせは、電子メールで同大視覚障害系支援課技術係（onose@k.tsukuba-tech.ac.jp）へお寄せください。

韓国語の点訳を始めてみませんか？

つつじ点訳友の会 古谷 妙子(ハングル点訳同好会「サランバン」)

ハングル点訳同好会「サランバン」（略称 点訳「サランバン」）は、韓国語を学ぼうという有志で結成され、私は初年度より参加し、ハングル点訳活動9年目を迎えております。

当会では、これまで独自で使用していた「韓国語点訳てびき」を見直し、韓国で使用されている指導書(改訂 韓国語点字規定)に沿って『韓国語点訳のてびき』を作成しました。このテキストは、ハングル点訳に慣れることを目的とし、第1課から第22課まで全て例文や練習問題・解答を載せました。第1課から第10課までは略字を使用しないで表記しており、第11課から第22課までは略字を使って表記しました。

昨年の春、『韓国語点訳のてびき 2008年版』が点字毎日に掲載されました。発行時に点字版作成予定とお伝えしました。その点字版がようやく完成いたしましたので、ご報告いたします。点字版は全3巻からなり、第3巻は点図によってハングルがわかるようになっています。詳しくは当会宛にお問い合わせ下さい。

後になりましたが、今春、筑波技術大学より発行されました「韓国語点字入門」(キム・ナヨン著)の、編集・点訳をお手伝いさせて頂きました。製作期間が限られていましたので大変でしたが、完成した時は当会のテキスト同様喜びいっぱいでした。最近のニュースで、インドネシアのある地域では、韓国語を使用することになったとありました。前述の「韓国語点訳てびき」を利用して、大学で第2外国語を専攻して下さった方もいらっしゃいます。今後、1人でも多くの方が、韓国語を学んで下さることを期待すると共に、点訳者も増えることを願っております。

問合わせ：ハングル点訳同好会「サランバン」 E-mail : saranban@mbm.nifty.com

【教点連会員、ボランティア団体のご紹介】

ご存知ですか？「求める会」

教点連結成から早4年半が経過し、教科書問題に関しては少しずつ進展が見られますが、学校生活や授業のあり方、進路のことなどまだまだ課題が多くあり、そうしたことで不安を抱えておられる親御さんや現場の先生方も多くおられるのではないのでしょうか。

私たち「求める会」は、正式名称を、「地域の学校で学ぶ視覚障害児(者)の点字教科書等の保障を求める会」と言い、教点連の加盟団体の一つです。1986年、地域の学校で学ぶ視覚障害児の保護者、教員、支援者等で結成し、以後、点字教科書の保障等を求める各地での行政交渉、講演会の開催、情報交換などを行ってきました。04年、文部科学省に要望書を提出し、同年秋より小中学校での点字教科書の国費保障が実現しました。

このたび、保護者や現場の先生方が不安を一人で抱え込むことなく共有していけるよう、より多くの方に本会の存在を知っていただければと願い、この一文を書かせていただきました。皆様の周囲の方々に本会のことをお伝えいただければ幸いです。

なお、詳細につきましては下記までお問い合わせください。

問合わせ：事務局・野々村、夜間 (090-3841-9107)

E-mail : info@motomeru.sakura.ne.jp

発行日：平成21年9月16日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

発行人：田中徹二

連絡先：(社福) 日本点字図書館 担当：田中・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel : (03) 3209-0241 Fax : (03) 3204-5641

E-mail : matsumotom@nittento.or.jp

振込口座番号：0180-7-262151

